

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



午後のひとときでまったりと～ (M_)ルン

2009年
4
月号



目次

| | |
|---------------------------|----|
| 消防訓練報告 | 2 |
| 新メンバー紹介 午後のひととき感想 | 3 |
| 外に出ようPart 1 | 4 |
| 外に出ようPart 2 虫めがねPart 1 | 5 |
| 虫めがねPart 2 | 6 |
| 実習所報告、夕会報告 スケジュール連絡 | 7 |
| 学習会報告 | 8 |
| 小野塚さん連載 | 9 |
| 太田稔さん連載 | 10 |
| 寄付のお礼 妙心寺報告、署名報告 | 11 |
| 編集後記 | 12 |



もうすぐ桜の季節ですね。桜の花は春を感じさせてくれます。それに桜といえば卒業式を思い出します。卒業からずいぶん遠ざかってしまいましたが、僕が次に卒業するのは、果たして何だろうとふと思ったりします（煙草とお酒を卒業することはないだろうけれど）。

小野塚 航



高浜荘 消防訓練の巻～



今回の消防訓練では、消火活動の体験をしました。過去にも消防訓練等で消火活動をしたことは有るのですが、当時は小学生だからか簡単に出来るようになっていました（小さめの消火器だったか、内容量を少なくしていたのかは分かりませんが）。其の頃に比べ今回の消火器は、かなり重く感じました。車椅子に乗ったまま消火活動をした（より難しく感じた）とは言え、こんな重い物を持って走って消火活動するのだなと大変さを思い知らされました。



田村 亮彦



まず外で消火器の訓練をみんなでやりました。それから上に上がって、消防についてのクイズをやりました。最後に乾パン、アルファ米、豚汁をもらいました。とてもおいしかったです。みんなで、また外で練習したいと思います。

小野田 浩

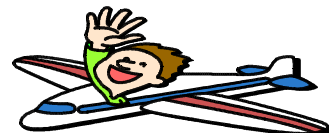



新メンバー紹介

小田正人です。
自己紹介をします。

42才。平成3年に某信託銀行入社。

不動産鑑定士を受験したり、融資、回収、証券代行等の業務へ従事したり、東京大学大学院において修士号を取得しました。しかし、平成15年6月に脳出血にて倒れ、昨年9月退社。



趣味は水泳。片手クロールで25m泳げます。

三ヶ月意識がなかったけど、助かって本当に良かったです。

目標は海外に行くことです。フランスとニューカレドニアには昔行ったけど、倒れてからは、どこにも行ってないです。よろしくお願いします。



ヒューマンの六階多目的体育館で行いました。読み語りから始まり、マジックショーをやった。女の子の手品師さんがハンカチから鳩を出した。四羽出た。良かった。歌と生演奏を、あいはいとみなと、みなと工房がやりました。あいはいとのピアノやバイオリンが良かった。ギターを弾き、紹介挨拶をしてくれて、静かにうっとり聞いた。歌がうまかった。みなと工房は打楽器を鳴らしながら、歌を歌っていて良かった。帰り際にクッキーを配付してくれた。お菓子配った方が手をさわってくれた。たまには仕事をしないで、こういうのを見に行くのもいいと思う。大変良かったです。

松本 恵司



第16回 障害者は外に出よう 『古き良き東京を訪ねて —浅草から谷根千まで—』 参加者募集中！！

より
区日一
歩に一
いて行
てわ
川れた
柳「港



日時：5月24日（日）9時頃～4時30分頃

※雨天延期の場合は5月31日（日）

場所：上野、浅草界限

参加費：500円※各班一人あたり2500円の予算で行います。詳しくは全体集会で説明します。

全体集会：5月16日（土）2時～4時 場所：港区役所9階大会議室

●『障害者は外に出よう』とは？

今まで家から一步も外に出たことのない障害者が外に出て色々な風景を見たり、自分自身で気に入った物を買ったり食べたりして楽しんでもらうという行事です。本番当日は、一班8～10名で行動します。（介助の必要な障害者1名に対し、3名のボランティアという組み合わせを考えておりますのでご安心下さい。）各班の障害者の方の家に迎えに行き、公共交通機関で散策しながら最終目的地となる、新橋バルーンに集合してもらいます。また当日は、皆さんが立ち寄った場所などの思い出を川柳（俳句でも可）にしてもらい、それを句集として後日、参加者にお渡しいたします。

「外に出よう」には、もう一つ大きな主旨があります。それは、この行事に沢山の障害者が参加することで、まだ家に籠もっている障害者やその家族に「外に出ようよ」と呼びかけ、世間の人々に私達は今を精一杯生きてるんだということをアピールし、今のバリアフリーで本当に充分なのか？という疑問を世間に投げかけられれば幸いです。だからボランティアに来てくれた人達にも外に出ようを通して今後のバリアフリーに対して障害者と一緒に考え、少力でボランティア活動に対して興味を持ってくれればこの行事も大成功です。

●全体集会とは？

当日の集合場所やどこに行きたいか、そしてルール説明、及び班の方との顔合わせをかねて開催します。なので、事前にどこに行きたいかを調べておくのも良いと思います。またボランティア未経験の方の為に、この日に介助の仕方や車椅子の押し方を班内で確認しあっていただきたいです。以上のような事を行うので、全体集会にはなるべくご出席下さいますようお願いいたします。全体集会参加者には後日、ご案内を送付いたします。また全体集会当日は、障害者の方を会場まで送迎致しますのでご希望の方は申込み時にお知らせ下さい。集会のご案内と一緒に送迎時間もお知らせします。

参加者の声（昨年「外に出よう」より）

買い物が出来て良かった。

電車に乗れて良かった。

場所が近かったので時間が有効に使えて楽しかった。

天気がとても良かったので気持ち良かったです。

皆さんも一緒に楽しみましょう！！ご応募お待ちしております。



←応募方法は左記をご覧ください！

応募方法 『障害者は外に出よう』実行委員会事務局（風の子会内）に下記のことを電話、もしくはFAXして下さい。

- ①性別と職業（社会人か学生か）、資料送付先（自宅住所と電話番号）
- ②5/16（土）の全体集会に参加できるか、また5/24が中止の場合、予備日である31日には参加可能かどうか。
- ③障害者の方は、車椅子を使用しているか、全体集会と本番での送迎の有無
※この行事の参加者は、行事保険に加入しますのでご安心下さい。

応募連絡先 障害者は外に出よう事務局（風の子会内）
TEL 03-3474-9674（担当・岡本）
FAX 03-3474-9213
メールアドレス sotodeyo@yahoo.co.jp

応募締切 障害者の参加希望の方は4月25日（土）
ボランティア希望の方は5月9日（土）



障害者は外に出よう構成団体

麻布13クラブ、車いすと共に歩く会、すすめる会、東京赤坂ローリークラブ、東京神宮ウイブズクラブ、特定非営利活動法人風の子会、ヒューマンクラブ、港区肢体不自由児(者)愛の会、港区重症心身障害児(者)を守る会、港区身障運転者協会、港区中途障害者会、立教大学B・S・A第8支部

僕は歴史は勉強不足で、好きな人物や嫌いな人物などはいませんが、子どものころから、テレビの時代劇番組を見ています。「水戸黄門」や「暴れん坊将軍」などの古くから行われている番組を、祖母と一緒に見ていたことを思い出します。ですが、僕のあこがれの偉人といえば「ヘレン・ケラー」です。なぜかといえば、子供の頃高熱にあい『視覚・聴覚・言語』の三重苦の障害にあいながらも、家庭教師の「サリバン先生」のもとで、スパルタ教育を受けて、言葉が喋られるようになり、水などの物の認識ができるようになるまでになりました。先生との二人三脚の賜だと思います。新たな情報によると、恋愛や失恋を経験をしたことも37歳の時にあるそうです。日本にも来たことがありますし、努力家だと云うことで尊敬をしています。

田中 聡

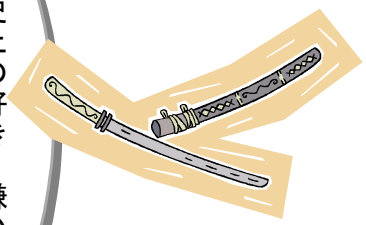


私は昔の映画俳優のジェームス・ディーンが好きです。何故なら足が長くてかっこいいからです。あとは髪型がかっこいいです。あんなかっこいい人が今目の前に生きていたらなあと思っています。

右田 磨子



今回からまたテーマが新しくなりました。『歴史上の人物で好きな人・嫌いな人』というお題は、果たしてメンバーにとつて書きやすいのでしょうか。それともまた頭を悩ませるテーマとなるのでしょうか。今回の担当メンバーは田中、右田、田村、小野塚の四名です。どうぞ、読んでみてください。



『歴史上の好き・嫌いな人物』と言ったことですが僕は全く持って無知な為、そして故事成句・格言等が好きな為、僕の好きな故事等から逆引き(?)して関連のある有名な人物を挙げたいと思います。

まず『徳川家康』です。『鳴かぬなら鳴くまで待とうトトギス』で知られる様に、忍耐強いらしいからです（此の句は本人が詠んではいせん）。余談で更に『歴史上の』ではないのですが、『織田信成（フィギュアスケート）』の『くくそれでいいじゃんトトギス』も好きです。他には『三本の矢』の『毛利元就』（フィクション説・脚色説が濃厚ですが）や『風林火山陰雷』の『武田信玄』（信玄が使ったので有名だが、信玄が最初ではない）、『生類憐れみの令』（此の様な名の成文法は無く、複数のお触れの総称です）の『徳川綱吉』等が好きです。

そういう点では嫌いな人物は『鳴かぬなら殺してしまえトトギス』と短気・気難しい性格の『織田信長』や、『本能寺の変』で有名な謀反を興した『明智光秀』、『ブルータス、お前もか』（実際には言っていないと考えられていて、「息子よ、お前もか」と言ったともされる）で有名な裏切り行為の『ブルータス』です。唯光秀は、『三日天下』で有名な様に若干同情する点も有りますが（実際には十一日の天下）。

田村 亮彦



Descartes

歴史上の人物といわれても、なかなかかすぐに思いつかない。日本史は好きだったし、世界の偉人たちもそれなりに知ってはいるが、特に好きだといえる人物を挙げるといわれると頭を抱えてしまう。あれこれと悩みながら、必死になって出てきた人物はルネ・デカルトだ。コギト・エルゴ・スムはあまりにも有名だが、そこに至る過程が興味深い。デカルトは真理を求めるためにいったんすべての事物を疑うという作業を行う（これを方法的懐疑という）。そして肉体を含むあらゆる事物が偽となり、最後に残るのが精神だという。そしてデカルトは、「私がこのように“全ては偽である”と考えている間、その私自身はなにかでなければならぬ」とし、これだけは真であるといえる事を発見するのである。これが有名な「私は考える、ゆえに私はある」という結に至るのだ。

日常を何気なく通り過ぎていくと、物事を当たり前に捉えずにしまいがちだ。そこでいったん立ち止まり「今やっている事は、本当に間違っていないのだろうか？」と自身に問うてみる。そうすることで、些細なミスや人との無意味な誤解なども回避できるのではないだろうか。これを方法的懐疑と呼ぶのはおこがましいかもしれない。けれど、日常に溢れている“思いこみ”を僕はできるだけ排除したいと考えているので、こういう思考は個人的に好きなのだ。

学生の頃に哲学をちらとカジリ、興味を持った。けれどそれ以来あまり深くは傾倒していない。もう少し歳をとって、ゆっくりと生きられるようになったら、その時はじっくりと勉強したいと思っている。

小野塚 航

工房実習所報告

二月の内職は名刺拭きの仕事をしました。今は箸の仕事をしています。自主製品の和紙を作る仕事を担当です。これからも一所懸命頑張ります。

斉藤 臣一



企画実習所報告

寄付で、棚・布団・テレビをいただきました。大事に使わせていただきます。そして新しい仲間も増え、益々活気づいてきました。

田中 聡



夕会便り

担当・太田 圭子

二月七日 インターネット販売について
 先週行われたインターネット販売に、ついでに詳しい説明がなされ、決を取った結果、賛成者が多かったため、風の子会もネット販売に参入する方向でいく事になりました。

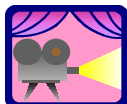


二月二十一日 歌と踊りについて

七月十一日に行われる歌と踊りの集いに、風の子会は何の演目で参加をするかをみんなで決めました。歌とかミュージカルとか歌舞伎とかの案が出されましたが、歌は何を唄うか、内容はどうするかは徐々に決めていく事になりました。

風の子会のビデオ作成について

以前から話はあったのですが、今度風の子会では、紹介ビデオを作る事になり、委員は三人で職員とボランティアと、選挙の結果メンバーからは田中聡君が選ばれました。



三月七日 歌と踊りについて

七月の歌と踊りに何を唱うかみんなと選びましたが「森のくまさん」を唱うことになりました。



スケジュール

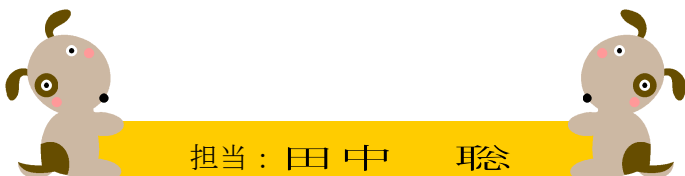
3月25日（水） 運営委員会

5月24日（日） 「外に出よう」本番

5月25日（月） 振替休日

※「外に出よう」は雨天の場合は5月31日（日）に延期、延期の場合は6月1日（月）が振替休日となります





2月18日 【ビデオ鑑賞】

前半と後半で、映画「少林少女」を見ました。出演者は、柴咲コウさんや仲村トオルさんら多数の芸能人が出てくる映画でした。CG等を使い、柴咲コウさんの演技に注目です。

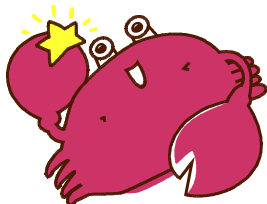


KOUSHIBASAKI



2月25日 【星と山の話】

前半に職員の岡本さんが星座の話をして、後半は職員の小林さんが山の話をして下さいました。山の話では、小林さんが普段から登山で使用をしている七つ道具をもっていただき、一つ一つの使い方を説明してくれました。北アルプスを皆が登るという設定で、防寒対策や救命救助の仕方なども勉強しました。まだまだ、僕たちには分からない道具や、しきたいなどがあると思うので、次回の学習会で勉強をしていきたいです。



3月4日 【予定決め】

前半と後半を使い、

4月 & **3月**

の予定を決めました。



わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語の dormitory つまり寮という意味】

第16話 「女子だよ女子！」なんて驚きつつ戸惑いつつ

入寮式から数日経った頃にはすでに僕の部屋は昨年同様に溜まり場となっていた。それは、S先輩やI、それに相部屋のHなどが仲間を部屋に連れ込んで遊びまくるからだった。スーパーファミコンがあり、オーディオも完備し、雑誌や漫画なども溢れているこの部屋は遊び場としての条件が揃っていた（夜には麻雀もできる）。新1年生達もよく来ていた。明らかにS先輩目当てで部屋に来る女子や、ゲームや麻雀などを楽しむ男子など、部屋には新鮮な賑やかさも訪れていた。

そう、この年から僕の部屋には女子も来るようになったのだ。それが、僕の部屋だということではなく、誰でも入りやすい部屋だったとしても、僕にとっては意外な展開だった。前年も溜まり場と化していた部屋だったが、その頃はあくまでも男子ばかりの男臭い溜まり場で、女っ気はまるでなかった。それは言ってみれば、小中高時代の実家での賑やかさの延長線上にあるともいえる状況だった。

それが、部屋に頻りに女子がやってくる・・・

それは、驚きの連続のスタートだった。

部屋周りや演劇大会などの“新歓期”にはこの部屋に来る常連の1年達はもうすっかり馴染んでいた。隣の部屋に入ったT、S先輩と同部屋のGなどは暇な時は当然のように部屋に来て、ゲームをしたり雑誌を読んだりゴロゴロしたりしていた。日中、学内をあれこれと回って僕が寮の部屋に戻ると必ず誰かがいる。それは1年だったりS先輩だったりIだったり様々だったが、とにかくこの部屋は毎日賑やかで騒がしかった。

そんな賑やかさが常にあったからだろうか、この部屋に女子が当然のようにやってくるようになったのは。初めの頃は戸惑い気味に接していた僕も、次第に馴れてくると冗談を言ったりバカをやったりと打ち解けられるようになっていった。よく来る女子は3人いた。その中の一人、Mは目が大きく可愛い髪をしていて、女の子らしい振る舞いを絶やさないコだった。まあそれは計算でやっていたものだと後に気づかされるのだが、新歓期当初はその可愛らしさによく見とれていたものだ。

あとの二人は、Mに付き合い合われて来ているという感じだった。背の高い、小顔でひょろっとした感じのコは、新歓期のころはよくきていたが、やがて自分の仲間ができたのか、徐々に来る回数は減っていった（そのせいか名前もはっきりと覚えていない）。もう一人は、独特な空気をもっていた。ぎょろっとした大きな目であちこちを見回すような表情には不思議な匂いを漂わせていた。背は小柄で、長い髪を無造作にストレートにしている。僕の第一印象は付き合いづらそうだ、と思ったものだ。

春が終わる頃には、Mの恋も終わったのか、部屋にはぱったりと姿を見せなくなった。それでも、3人目だけは以降も部屋によく来る常連でいつづけた。

彼女は、Nという。

～ 第17話につづく ～

母の思い出

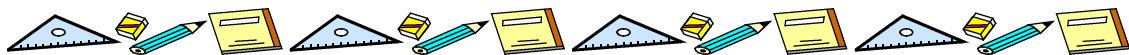
第十六回

太田 稔

島に到着した僕たちは早速、島観光。何しろ四十年くらい前のことである。当時のバスガイドさんが言っていたが、島には信号機が一個しかなかったらしい。（今ではいくつも信号機なんて出来ているだろうが）そして宿に着いたのは午後三時過ぎだった。母は手早く僕と自分の身支度を整えた。自分の母ながら、てきぱきとやってくれたと今でも感心させられる。さて一日目の夕食はジンギスカンを食べながら、地元の有志達が「八丈太鼓」を披露してくれた。それが終わると有志達は「私たちの太鼓を聞いてくれたのだから、今度は八丈太鼓をどなたか打ってみませんか」その時、「私打ってみたいです」その声は「渡辺圭子」、現在の女房である。僕も母も驚いてしまった。今の圭子なら解るが、あの頃の圭子はうちに遊びに来ても恥ずかしがりやで、物もろくに言えない人だった。それがあんな大勢の人の見ている前で太鼓に挑戦してみろというのである。僕と母はこの時くらい驚いたことはなかったのである。さて、八丈島から帰る飛行機の中で母はこんな話を始めた。「今度の旅行は稔との最後の旅行になりそうなのがするわ」僕は驚いた。しかし実は薄々は気づいていたのである。僕が驚いたのは母が何故自分が近い将来亡くなると言っているのか、後で分かったことだがそれを教えたのは、祖母だった。妹と祖母と僕の親友（母の思い出の中頃に出てくる人物）で、母がガンに冒されていることは、内緒にしておこうと話し合っていたのである。しかし母はこう言った。「でも私がガンだと聞かされてよかった。私でないと分らないことがずいぶんあるからね。」それからの母は忙しくなってきた。妹を連れて役所に行ったり、家の隅を妹に見せたりしていた。そして昭和四十六年の三月も終わる頃僕は母と桜を見に行った。桜の木の下で色々なことを話し合った。母はこんな話から始めた。「稔、ご免ね、稔より先に死ぬことになりそうだわ。でも、私が死んでも稔なら、何とか生きていけるんじゃないのかな。お母さんはそう思いますよ」母の目は今にも泣きそうに潤んでいた。僕も母と同じ気持ちなのである。母と僕はその帰り、お寿司屋さんに立ち寄った。母は僕に言う。「今日はいくら食べてもいいわよ、そしてどんな高いネタでも食べてもいいわよ」しかし僕は寿司など食べるどころではなかった。なによく食べるのに「寿司屋から出た僕たちは帰る道々母は僕のことを心配し続けていた。「貴方が心配で堪らないのよ。私が死ぬと分かっても何もしてあげられないのが残念で堪らないわ」本当は母の言う通りだった。（今、母が死んだら僕はいつかどうすればいいのか分からない）母はそれから一ヶ月後に、日本医科大学付属病院という（場所は定かではない）病院に入院した。

次回に続く

国立上野博物館の京都妙心寺とNYからのお里帰りの展示品を観て



バレンタインのこの日は5月下旬の暖かさで、歩いていても心地よくて最高のコンディション。会場に着いた時間が早かったせいか、門を入れて会場へ行く間の道にも、招待されたような人達は見当たらなかったのが心細くなりましたが、会場には大勢の人達が集まっていた。最初の30分間は博物館の先生が妙心寺の成り立ちとか、妙心寺の歴史の話をした後で、展示品の説明をしてくれましたが、私は歴史が苦手なのでほとんど右から左（ゴメンナサイ）でした。展示品の説明には耳を傾けて一生懸命聞いていた甲斐があり、展示品は主に妙心寺の草書で書かれた掛け軸や僧侶の肖像画でしたが、中にはNYのメトロポリタン博物館から、お里帰りをした襖絵や屏風絵も有りしばし見入ってしまいました。善意銀行様を通じて、この展覧会に御招待して下さいました、三菱商事株式会社の皆様には本当に感謝しています。お陰様で心の宝物が増えました。有り難うございました。



太田 圭子

お詫び

今月の『シベリヤ秘話』
 連載は作者の都合により
 休載させていただきます。



寄付のお礼

2月8日～3月7日

賛助会にご賛同下さった方
 小野田和子様

ありがとうございました

きょうされん

第三十二次国会請願署名・募金運動

経過報告

先々月の会報で皆様にお願いました国会請願署名ですが、多くの方のご協力により沢山の署名と募金を頂いております。ここで、現在の署名数と募金額をご報告いたします。

三月七日現在

署名数・・・百二十九筆

募金額・・・一万七千円

署名用紙を実習所にご郵送された皆様、再度署名にご協力下さった皆様、募金を下さった皆様へこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

なお、署名は四月下旬まで行っておりますので、よろしくお願いいたします。

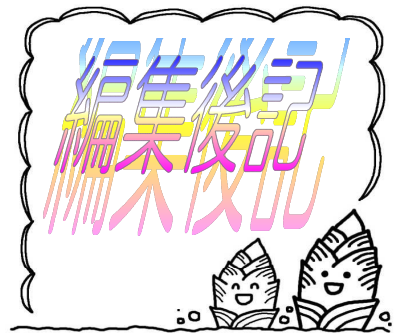
署名用紙はまだ沢山ございますのでご希望の方はご連絡下さい。

署名担当

丸岡秀明・矢代奈津三

Thank you





二月にお袋が目の手術で病院に入っている間、八階のショートステイに行ってきた。品川プリンスシネマに行き、二〇世紀少年を観てきた。ユースケサントマリアが恐ろしく、スリル感あって良かった。見に行かせてくれて感謝しています。

なっなんだっ！
 チニは社会の
 礼儀とゆーものを知らんのか？！
 ぶおやち
 とこの頃特に声を張り上げて「怒」の感情を言動に表してばかり、りも、自分が冷静になり、叱る（諭す）方が当事者にも第三者にも良いと思いません。もう既に過ぎた事に感情を表し怒るより、注意だけで良いと思うの。まあ、子供に対して（特に自分の子供）と大人とは違うのでしようけれども。受け売りですが、『言動に表しての怒るには、八割程が勢い・感情で喋っている為に後々になってなぜこんな事を言ったのだろうと後悔してしまふ』と有りました。

田村 亮彦



もう無理!!

『怒る』・『叱る』・『注意する』・『諭す』等の言葉が有り怒る時に見せる必要かとは思いますが、怒ってばかり（特に意味も無く）なのもどうか



また今度行きたい。五月に八階に泊まりに行くのが楽しみです。

三木 直人

テレビの創世記の頃から八五年までが、芸能界&テレビ業界が、一番華やかな時期だったような気がします。銀幕のスターがテレビ界に進出するなんて考えられなかったじやないでしょうか。それを身近にさせてくれたのが『スター千一夜』。この番組はスターの素顔が垣間見れる画期的な番組でした。なんて、さも観たかのように語っています。先日もジテレビ五〇周年記念番組を観たからです。僕の時代は七〇〜八〇年代までが一番の思い出です。景気が安定していたおかげで沢山の面白い番組が観られました。クイズ番組でいうと『なるほど・ザ・ワールド』や『世界まるごとHow mach』。バラエティ番組では『レコード会社対抗大運動会』、『芸能人水泳大会』等がありました。中でも一番好きだったのは『スターどつきり秘報告』です。まさしくタイトル通りスターにどつきりさせるのです。仕掛けが大がかりで手が込んだスターの素顔を面白く腹をかかえて笑ったのを懐かしく思

松本 恵司



お昼にフードコートでハンバーガーを食べに行きた。楽しかった。スタジアムからフリーの前はバリアフリーです。

ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ~定価40円~

編集者
 天海隆
 太田航
 小野稔
 田中聡
 松本司
 右田司
 吉田代

主筆
 正人
 佐田彦
 久村間
 三木直
 幸栗高
 和栗郎

編集人：【高浜生活実習所】
 生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075
 東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階
 TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://www.kazenokokai.npo-jp.net/>

発行人：障害者団体定期刊行物協会
 東京都世田谷区砧6-26-21

